JSBB 熱中症予防対策ガイドライン

令和 7 年 5 月 1 日時点

■JSBB 暑さ指数に係る実施方針

<table>
<tr><th colspan="2">熱中症予防運動指針（WBGT℃）</th><th rowspan="2">JSBB
熱中症予防対策指針</th><th rowspan="2">会場（試合会場等）での対応</th></tr>
<tr><th>JSPO</th><th>環境省</th></tr>
<tr><td rowspan="3"><u>31℃以上</u>
<u>運動は原則中止</u>
<u>※特に子どもの場合は中止にすべき</u></td><td>35℃（予測値）
参考：熱中症特別警戒アラート発表</td><td>試合の中止</td><td>当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延を判断する。</td></tr>
<tr><td>33℃（予測値）
参考：熱中症警戒アラート発表</td><td>試合の中止</td><td>当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延・時間変更を判断する。</td></tr>
<tr><td>―</td><td>原則試合の中止</td><td>原則、試合は中止、中断、順延とするが、<u>JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）</u>の大会運営側の対応ならびに試合中のクーリングブレイクの確保が十分に取られている場合には、主催者の判断において実施することができる。

<u>※試合中に WBGT33℃を超えた場合は、試合を中止または中断する。</u></td></tr>
<tr><td>28℃～30℃
厳重警戒
激しい運動は中止</td><td>―</td><td>厳重警戒</td><td><u>JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）</u>に準じて試合を実施することができる。</td></tr>
</table>

【補足】

※JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）については、赤線□で囲んでいる内容が該当となる。

※熱中症特別警戒アラートが発表された時には、大会本部にて実施検討会議を行う場合がある。

■全国大会における WBGT の計測の実施

- **学童少年部の全国大会において WBGT 計による計測を行う**

① WBGT 計測は、大会運営側が下記の要領で実施し、今後の熱中症対策の指標として活用する。

② 計測は、競技日ごとに全会場、全試合で実施する。

③ 1 試合における計測は 6 イニングの試合の場合は、試合前・2 回、4 回終了後・試合終了後の 4 回とする。
7 イニングでの試合の場合は、試合前・2 回、5 回終了後・試合終了後の 4 回とする。
9 イニングでの試合の場合は、試合前・3 回、5 回、7 回終了後・試合終了後の 5 回とする。
※試合前の計測する時間は、できる限り試合開始時間の直前とする
※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2 イニングごとに計測を行う

④ WBGT 計測器を地上から 1.1ｍ～1.5ｍの高さで計測する。活動に支障がなく、運動実施個所になるべく近いところにする。

■熱中症の予防対策

大会運営側の対応

- 救護所を準備する。
- 球場には常時 WBGT 計測器を準備し、適時確認し選手の健康面に気を配る。
- ベンチでは選手、指導者をとりまくスペースに日射を遮る環境を整える。

- 緊急時に備え、氷、スポーツドリンク、経口補水液を準備すること。
- 審判、運営スタッフ、関係者等にスポーツドリンクを用意すること。
- 選手、保護者および観客等がスポーツドリンクを購入できる環境を整備する。万が一、施設内に自動販売機やスポーツドリンクが購入できない環境にある場合は、事前に参加者に周知すること。
- WBGT25℃以上が予測される場合、医務室および医務スペース周辺にアイスバス等の全身冷却が可能となるよう準備する。
  ※アイスバスが準備できない場合は、首、わき、足の付け根などの大きな血管を氷やアイスパックなどで冷やすことができる物品を用意すること。
- 空調の効いた諸室等を準備する。

■試合当日の対応

- **原則 WBGT31℃以上の場合、試合は開始しない。　※**
  ※　WBGT31℃以上が試合中に予測される場合は、①・②を実行し、主催者の判断で試合を実施することができる。

① WBGT28℃以上の場合
- ✓ 6 イニングでの試合の場合は 2 回、4 回終了後に 5 分間のクーリングタイム（給水タイム・身体冷却タイム）を設ける。(3 回終了後のグラウンド整備時にも積極的に給水・身体冷却を行うこと)
- ✓ 7 イニングでの試合の場合は 2 回終了時、5 回終了後に 5 分間のクーリングブレイク（給水タイム・身体冷却タイム）を設ける。
- ✓ 9 イニングでの試合の場合は、3 回終了時、5 回グラウンド整備時、7 回終了時に 5 分間のクーリングブレイクを設ける。
  ※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2 イニングごとにクーリングブレイクを設ける
- ✓ 各イニングにて守備時間が 20 分以上に及ぶ場合は 5 分間のクーリングブレイクを取ることができる。

② WBGT25℃以上の場合も**上記同様の対応とする。**

③ その他
- 食欲不振、寝不足、体調不良者など選手の体調変化に目を配り、熱中症にならないよう最大限配慮する。(大会運営や試合進行など)
- 試合中に熱痙攣になった場合、一時的（5 分程度）に休息し様子をみる。試合中に同じ症状が出た場合は選手交代を促す。
- 試合中に熱中症（中程度～重度）となった場合は速やかに選手を交代し医務室へ搬送する。(保護者およびチーム関係者のいずれかが選手に帯同する)
- クーリングブレイク（給水タイム）について
  クーリングを目的としているため日射を遮り、風通しの良い環境を作り休ませる。
  冷却として氷嚢、冷却水で顔や頭、首やわきの下、鼠径部を冷やす。
  冷却、給水に当てているため、指導者による作戦タイムとして活用しない。

■その他、対応が望ましい熱中症予防対策

- 散水設備が整う会場では、可能な限り、内野地域に散水を行いグラウンド温度を下げることが望ましい。
  （人工芝グラウンドの場合は、実施なし）
  ※6 イニングの試合の場合は、試合前・3 回終了後とし、7 イニングの試合の場合は、試合前・4 回終了後に実施する
- 両チームベンチ内に扇風機を設置することが望ましい。
- 試合時間は、可能な限り WBGT 値が高くなる時間帯（12 時～16 時）を避ける。
- 活動時間は極力短縮し、1 日を通した活動を控える（＊特に小中学生は注意を払う）
- 試合中、ベンチ内外を問わず、ネッククーラーの使用を認める。(接触等で破損しない素材の製品のみ使用可)